

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝9時の申し送り時、職員で行動規範を唱和して、その十か条を念頭において業務に就くようにしている。	理念、行動規範についてはホールに掲示し、来訪者の目にふれるようにしている。行動規範については申し送り時に唱和を行い共有と実践に繋げ、職員会議、人事考課の個人面談等の機会を捉え振り返りの時を持ち支援に繋げるようにしている。家族に対しては利用契約時に理念に沿った支援について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1度に近隣の方が来所し、昔ながらの遊びの「お手玉」「まり」等でふれあいをしている。子供神輿や、施設の餅つき大会では地域の方や子供とも交流をしている。少しずつではあるが築きつつある。	区費を納め松城代官町の一員として活動している。地域のお祭りには子供神輿が来訪し利用者となれあう場を持ち、ホームで行われる餅つき大会には地域の育成会とのコラボで大勢の子供が訪れ交流の時間を持っている。また、松代「真田祭り」や「祇園祭り」等も見学に出掛け、地域の人々とふれ合っている。更に、地区の保育園児が年3回来訪し、「歌」、「踊り」、「手遊び」等で利用者となれ合い、中学3年生も手作り紙芝居で来訪し、合わせて「歌」・「木管演奏」のボランティアの来訪も定期的であり、利用者も楽しみにしている。また、民生委員と連携を取り「オレンジカフェ」も開催予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を開催し、認知症の持つ方に対する支援方法を話したり、認知症とはどういう病気なのかということを理解していただけるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではご利用者様にも参加していただき、本人やご家族様から出た意見を聞いて質の向上へとつなげている。	利用者代表、家族代表、区長、民生委員、市高齢者活躍支援課職員、地域包括支援センター職員、あんしん(介護)相談員、近隣住民、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回、偶数月に開催している。利用者の状況報告、事故報告、職員状況報告、行事報告、意見交換等を行い運営の向上に繋げている。職員に対しては職員会議の席上頂いた意見の中の特記事項について報告し支援に役立てている。	運営推進会議を活かした取り組みとして、防災訓練や家族会等に合わせて実施し、出席者の幅を広げ、なお、一層地域に開かれ密着したホームとなることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、事業所の実情や今後の検討、経過などを話し、担当者より意見をもらうようにしている。	事故報告等については市高齢者活躍支援課を訪問し報告している。地域包括支援センターとは利用者の入居状況等で連携を取り進めている。運営推進会議のメンバーでもあるあんしん(介護)相談員の来訪が月1回あり、利用者と一緒に振り返りの時を持ち、気づいた事柄については細かく報告があり支援に活かしている。介護認定更新調査はホームで行い、ほとんどの家族が立ち会われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人員体制の時間と玄関を出るとすぐに道路ということから安全を考え10時～17時以外は施錠しているが、業務において身体拘束ゼロ・事故防止委員会を配置して身体拘束についての理解に努めている。また、やむを得ない場合は早期に改善策を考えている。3か月に1度勉強会をしている。	法人の方針として拘束のないケアに取り組み、玄関は日中開錠されている。離脱傾向の強い方がいるが、時間を見て、家等の希望する所にお連れしたり、傾聴中心に関わる時間を多く取り、合わせて所在確認をきめ細かく行い対応している。現在転倒リスクを避けるため家族と相談しセンサーマット使用の方やチャイム使用の方などがある。3ヶ月に1回開かれる本社の身体拘束研修会を基に月1回開く「事故防止委員会」での振り返り研修で意識を高め実践している。	

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について何が苦痛を与える行為なのかを勉強会を開く予定でいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所で勉強会を開く予定でいる。外部研修も積極的に活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時にご家族様へ契約書・重要事項説明書を説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス計画書の説明の際、ご家族様から要望や意見を聞いている。 家族会や運営推進会議の時にご家族様、相談員、地域の方から意見や要望を伺っている。	殆どの利用者は意思表示の出来る状況であり、寄り添う中でお話を聞き思いを受け止めるよう努めている。家族の来訪は週2回から月1回位の状況で、介護用品をお持ち頂いたり、受診をお願いし来訪の機会が多くなるよう働き掛けている。来訪の際には利用者の日々の様子、良いことを中心にお話するようにしている。家族会を年3回行い、利用者個々の様子、懇談会、食事会、外出支援等を行っている。誕生日会は、生まれた日に利用者主役で行い、「好きなお菓子」と「誕生日カード」でお祝いし、出席される家族もいる。また、母の日、父の日に花のプレゼントを届ける家族もいる。更に、3ヶ月に1回、法人広報誌「ライフケア」に合わせ「まゆ松代のお便り」をお届けし行事の様子等をお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、職員会議を開いたり「つぶやきノート」で職員の意見を拾ったり、意見交換を行い、実行ができるようなものから反映している。	月1回職員会議を行い、会社からの報告、「つぶやきノート」の中からの提案議題に基づき話し合い、チームワークを一つにし支援に取り組んでいる。また、所長中心に日頃から距離を置かず「ありがとう」と言えるコミュニケーション作りに取り組んでいる。人事考課制度があり職員自ら目標を立て、それに沿い、自己評価をした後、所長による2次評価、次長による3次評価を経て、本社による最終評価へと繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップに向けての育成面談を年2回実施している。管理者も現場に入り職員の意見を積極的に聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアにおいて認知症実践者研修を通し、ケアのスキルアップを目指している。また、研修をまだ終えていない職員にも研修者のカンファレンスに参加し考え方を学べる機会を多くしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケアの外部研修において、同業者と交流する機会をもてるようにしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との話し合いの中で、今までにしてきたことや要望を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に困っていることや要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時は困っていることを状況を把握し、改善に向けた支援の提案や必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持っていただき、職員から「ありがとう」と感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院の受診や行事の際はご家族の方々の協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではなく可能な限りで、本人様の行きたいところへ一緒に同行をしている。	同級生、友人、近所の方の来訪があり、お茶をお出しし寛いで頂いている。中には一緒に外出される方もいる。ホームの電話で家族に電話される方も数名おられ年賀状もご自分で出される方が数名いる。利用者の中に素晴らしい「絵手紙」を制作される方がおられるので今年の年末には全利用者で年賀状を作成し家族にお出しする予定である。また、馴染みの美容院に話を楽しみ出掛ける方や希望でほしい物を買ひ物に出掛ける方も数名居られる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内の席を、関係の変化や新たな関係づくり等で席替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ移動になった時は、本人の日々の様子や生活をお話している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様やご本人と話し合いながら希望を聞いている。 困難な場合はひとときシートを活用し、理解するように努めている。	殆どの利用者が意思疎通の出来る状況であり、自己決定については二者択一も含め、決めて頂けるような提案を行い、意向に沿った支援に繋げている。遠慮がちな利用者については夜間居室にてお話を伺い希望に沿うようにしている。日々の気づいた言動等は、「大人の学校」の様子等も含めケース記録に残し、家族からお聞きした生活歴も参考にケースカンファレンス時の振り返りの参考にもし、合わせてケアプラン作成にも役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にそれまでの生活歴や暮らし方を本人やご家族様から聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子から個々の状態の把握をし、変化がある時は職員同士話し合い、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは居室担当を配置し、行っている。 変化のある時は計画作成担当者を含め話し合い、計画に変更を行うようにしている。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室の整理整頓、誕生日会の計画、アセスメントなどを行っている。モニタリングはその日の職員がチェック表にて確認し、1ヶ月分の纏めを担当職員が行い、週1回開かれるカンファレンスにおいて家族からお聞きした希望も取り入れながらケアマネージャーを中心に職員の見解も反映させプランを作成している。目標は基本的に短期6ヶ月で、変化がなければ1年で見直し、状態に変化が見られた時には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録へと落とし込み、気づきを元にケアの実践と結果を行い、申し送り時で共有をしている。状況によって24hシート等も活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人のニーズに沿い、ご家族の状況を踏まえたり考えながら行っている。		

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌のボランティアの方々に月に1度来てもらい交流している。 詩吟の上手な方に公民館をかりて教室を開いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時を除き、基本的に定期受診に関してはご家族の方に対応していただいている。	入居前からのかかりつけ医利用の方が大半で家族がお連れしている。若干名の利用者はホーム協力医の受診対応で職員がお連れしている。法人の訪問看護師が週1回来訪し、利用者の健康管理を行い、また、オンコール対応となっている。歯科は必要に応じかかりつけ医の往診で対応し、口腔ケアについては食前の「バタカラ体操」から食後のケア迄、職員が入念に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度(木曜)訪問看護の看護師に来ていただき協力を得ている。また、連絡ノートを活用して情報共有している(訪看ノート)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はケースワーカー、病棟の看護師、ご家族の方から様子を伺い、状態把握や相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が予測される方に対して、重度化した場合の指針を説明し同意を得る。	重度化についての指針があり、利用契約時に説明している。その状況に到った時には改めて家族の意向を確認し医師を交え話し合いの場を持ち、支援に組み込む予定である。現状、未だ未経験であり、職員の教育も含め万全な準備を早急に整え、重度化に対する支援に取り組む意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	現状、勉強会は出来ていないが、緊急時の連絡体制や行動のマニュアルは見える位置に貼ってある。今後、外部研修にて必要な知識や必要な対応方法を学び、事業所で繰り返し実践力を身に付けようとする。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回職員は全員参加で火災訓練を行っている。	年2回、6月と10月に防災訓練を行っている。うち、1回は消防署員参加の下行い、火災想定での消火訓練、出火場所を想定しての利用者全員参加の避難訓練と避難の「イメージトレーニング」を合わせて行っている。また、通報訓練と緊急連絡網の確認も実施している。来年度は運営推進会議に合わせ1回は実施する予定である。備蓄については未だ備えがないので早急に「非常食」、「水」等を用意し、また、「ガスコンロ」、「石油ストーブ」等も準備予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まずその人がどんな生活歴でどんな性格をしているのかなどを把握し、本人の気持ちを大切にケアを心掛けている。	居室を利用者の憩いの場とし、ホールとは区別をし、居室でのプライバシー確保には特に気配りし取り組んでいる。また、言葉遣いにも気を付け利用者の気持ちを思いつつ互いに注意し合い気持ち良く過ごしていただけるよう心掛けている。入室の際には「ノック」と「声掛け」を忘れずに、呼び方は希望をお聞きし「さん」付けでお呼びしている。接遇やプライバシー保護の振り返りを行い、また、研修も実施し意識を高め取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴をして、本人の想いや希望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	支援者という立場にあることを念頭におき、個々のペースに合わせる時は合わせて支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着慣れている洋服を持ってきていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は職員も一緒に席へと座り食事をしている。個々の能力に合わせて、できる方には準備や片付けと一緒にやっていただいている。	自力で摂取できる方が大半で、一部介助の方と全介助の方がそれぞれ若干名という状況である。昼食と夕食はグループの配食会社のものを使い、ご飯と汁物、朝食についてはホームで調理しお出ししている。利用者のお手伝いは下準備、盛り付け、片付けまで、力量に合わせ参加していただいている。敬老会にはオードブルとお寿司でお祝いし、正月からクリスマスまで1年を通し、行事時には季節に合わせた料理を提供し楽しい時間を過ごしている。また、買い物に出掛けた時にはコーヒーやアイスクリームなども楽しんでいる。更に、これから少人数に分かれ外食レクリエーションを計画し実施する予定がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の嗜好品を聴いたり、食べなれているものや能力に応じて食べやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声がけを行っている。義歯の方は夕食後に預かり、ポリドントを使用している。		

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前にはトイレへの呼びかけを行っている。 尿意のない方には排泄パターンを探り、失敗を減らせるように誘導している。	自力で排泄でき布パンツ使用の方が数名、一部介助の方が四分の三ほどでリハビリパンツとパットを使用し、全介助でオムツやリハビリパンツ使用の方が若干名という状況である。排泄チェック表を用いパターンを掴み個々のパターンに合わせ早めに声掛けを行いトイレでの排泄に繋げている。合わせて起床時、食前、食後、就寝前にも声掛けを行い気持ち良く過ごしていただけるよう取り組んでいる。また、起床時に牛乳、屋敷時に乳酸菌飲料、合わせて体操で体を動かし排便促進にも取り組んでいる。更に、排泄パターンの把握に合わせ尿量を測定し、パットの費用削減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操をしたり、生活リハを兼ねて運動の働きかけをしている。 昼食時にヤクルトを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全員ではないが基本的に本人の希望に沿ったように入浴ができるように本人とも話し合っ支援している。	自立される方は若干名で、一部介助の方が80%、全介助の方も若干名という状況である。基本的には週2回の入浴を行い、希望により週3回入浴される方もいる。拒否の方がいるが誘い方を変え工夫をし脱衣所にお連れし入浴していただくようにしている。季節により「ゆず湯」、「菖蒲湯」、「みかん風呂」等、季節のお風呂も楽しんでいる。また、家族と日帰り温泉に出掛けられる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホール内で眠そうにしている時は、居室へ案内して休息を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセットを職員の皆で行い、内服薬の用法などに対しての意識を持つようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力やその人のやりたいこと(野菜作り・絵はがき)等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の能力や希望に応じて買い物や散歩等の外出支援をしている。	外出時、自力歩行と杖使用の方がそれぞれ数名ずつおり、車イス使用の方が半数強という状況である。天気の良い日には必ず1日1回はホームの周りを散歩したり近くの象山神社や庭園まで散歩に出掛けている。年間の行事計画があり3月の象山神社のひな流しを始めとし、秋の菊花展見学までほぼ月に1回、地区の行事に合わせて外出し、外の空気に触れている。また、少人数に分かれドライブや外食にも出掛け好きな物を食べ楽しんでいる。	

グループホームまゆ松代

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内での所持は基本的にしていないが、出来る人には買い物行った先で財布を渡し、自分で買い物ができるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の気持ちに沿い希望のある時は、ご家族様にもお話をし、電話での支援を行っている。年賀状も可希望のある時は出せるように心がけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天気や生活リズムに応じて調節している。	玄関正面と廊下の壁には利用者が制作した絵手紙と色紙などの素晴らしい作品が数多く飾られ華やかさを演出している。一日の大半を過ごすリビングホールは2ユニットを仕切るパーテーションが開放され広々とした中、「大人の学校」で学んだり体操で体を動かし、また、会話を楽しみ寛いでいる利用者の姿が見られた。大きな窓で陽当たりも良く、エアコンと床暖房で温度管理され快適に過ごせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には本人の自由に過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、使い慣れたものを持ってきていただき、安心して生活ができるようにしている。	担当職員の手により綺麗に整理整頓された居室は利用者の状況に合わせた自由な生活の場となっている。使い慣れた家具や家族の写真に囲まれ、利用者によっては自宅で使われていた立派な机、いすなどを持ち込み、趣味の作品制作に打ち込まれている方もおり、自分の住み家として穏やかな生活を送っていることが窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内のレイアウトでは、すぐに起きたときに手すりがあるようにしたり、個々の能力に合わせて工夫をしている。		